

ナラ枯れ防除(薬剤注入)実施について

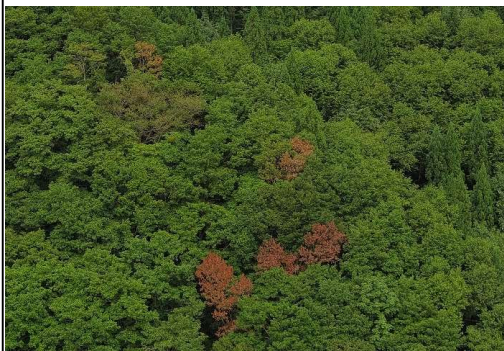
* 官民連携しての取組 *

ミズナラなどのナラ類が枯死する「ナラ枯れ」の被害が昨年度、当支署管内（北秋田市・上小阿仁村）で初めて確認されたことから、被害の蔓延防止のため薬剤注入による春駆除を請負事業により実施しました。

実施にあたり近隣の関係自治体や米代東部森林管理署と作業の状況を確認し終了後にナラ枯れ発生の状況、対策や防除方法について意見交換を行いました。

今回、被害が初めて確認されたこと、ナラ枯れが数か所に点在していること、現地が急傾斜地であることから薬剤注入により処理することとなりました。薬剤注入はナラ枯れで枯死した木を伐倒せず立木のまま樹幹にドリルで注入孔を開けて殺虫剤を注入することで、樹幹内に生息するカシノナガキクイムシを駆除する方法です。

今後もナラ枯れ被害の蔓延防止に向け、地域と連携し、防除対策に取り組んでいきます。



ナラ枯れ発生(北秋田市阿仁)



ドリルで注入孔を開ける



薬剤注入による防除処理



樹幹注入孔



地元自治体との意見交換

* 若手職員勉強会 *

請負事業者がナラ枯れの樹幹に薬剤を注入する作業について、当支署の若手職員が現地で勉強会を実施しました！

大径木では薬剤が内部まで浸透しにくく、効果が限定的になる場合があるため、参加者で薬剤を注入するための注入孔の位置を確認したり、注入する薬剤の分量を実際に確認しながら作業の流れを見学しました。

〈参加職員からの感想〉

・ 薬剤を効率よく行き渡らせるために穴の高さまで決められており、作業一つ一つにきちんとした理由があることや、木の仕組みを生かしていることが分かりました。（治山担当）

・ 実際にドリルで穴をあけ薬剤注入を行う工程や、少量で効果を発揮する薬剤資材（高濃度タイプ）を見学し、防除作業の大変さと重要性を肌で感じました。（経営担当）

・ 人的・予算的コストを考慮しつつ、有効な対策を県・市町村などの関係機関とともに意見交換によって見出すことが今後も重要であると考えた。（育成担当）

・ 今回の防除対策は立木くん蒸でしたが、現場の状況に合わせて対策方法を選択する判断力が大切だと感じました。
被害の拡大を防ぐためにも日々の巡視や早期の予防措置が重要だと考えます。（管理担当）



樹幹注入孔の位置を確認



作業の流れを確認



ドリルで穴を開ける前に注入孔にマーキング